

平成30年度第1回秦野市上下水道審議会

午後2時00分開会

○課長代理（総務担当） それでは、定刻より若干早いですが、本日まで出席いただける委員の皆様お集まりでございますので、ただいまから、平成30年度第1回秦野市上下水道審議会を開会いたします。

本日は、ご多用の中、ご出席をいただきましてまことにありがとうございます。

私は、本日の進行を務めさせていただきます上下水道局経営総務課の井上と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず最初に、審議会委員の委嘱につきまして、ご報告を申し上げます。

このたび、東海大学からの推薦によりまして松原沙織様、日本水道協会からの推薦によりまして山口泰史様、日本下水道協会からの推薦により影嶋浩一様、ティラド株式会社様より小山敬規様、公益社団法人秦野青年会議所より柏木元樹様に委員をお願いすることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、委嘱状につきましては、机上配付とさせていただきますので、ご確認いただきたいと思います。

さて、本日の会議でございますが、委員15名のうち12名の出席をいただいておりますので、秦野市上下水道審議会規程第7条第2項の規定によりまして、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、開会に当たりまして、茂庭会長、ご挨拶のほどよろしくお願いいたします。

○茂庭竹生会長 ご紹介いただきました茂庭でございます。

この審議会ができる前、水道と下水が去年一緒になったわけですが、その前ずっと下水道のほうの審議会を預らせていただいております。その関係で若干は秦野の水道、下水道の中身について勉強したつもりでございますので、今年また会長として務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は、平成29年度の秦野市の水道事業及び下水道事業の決算状況が議題となっております。よろしくご審議のほど、お願いいたします。

○課長代理（総務担当） ありがとうございます。

続きまして、本日は、本年度初めての会議となりますので、上下水道局長のほうからご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○上下水道局長 皆様こんにちは。上下水道局長の福井です。本日は、ご多用の中ご出席いただきましてありがとうございます。

先ほど司会からのお話がありましたが、このたび委員にご就任いただきました松原様、山口様、影嶋様、小山様、柏木様、よろしくお願ひいたします。

今、会長からお話がありましたように、本日審議会を開催させていただきましたのは、29年度の水道及び公共下水道事業の事業会計の決算がまとまりましたので、委員の皆様にご説明をさせていただき、そして健全経営に向けてのご意見をいただきたいというのが目的でございます。

ご承知のように本市では既に人口減少が進みつつございまして、平成27年度に水道事業計画で見込みました人口よりも減少しております。地方における自治体の水道事業体の一部では、水の使用水量が減少いたしまして、給水収益の減収、維持管理の費用を賄えなくなっているという状況が発生していると聞き及んでおります。

本市の水道事業につきましては、水需要の減少傾向がとまってはおりません。給水収益も減少傾向にはございますが、平成27年度に審議会の皆様と一緒に策定いたしました28年度から37年度までの事業計画に基づきまして、耐震化をはじめとする施設整備については着実に進めているところでございます。

本日、委員の皆様にご報告をさせていただきます。

1つは、昨年度この場で市長が挨拶で申し上げました曾屋水道の国の有形文化財としての登録でございます。昨年、正式な登録につきまして、国からプレートが届きました。今、職員がお持ちさせていただいております。今年度、曾屋公園のほうに文化財に関する説明板を設置いたしますので、その際に、このプレートも一緒に設置をしていき、市民の皆様に見ていただくような形をとりたいと思っております。

それから2点目でございますが、ペットボトル、「おいしい秦野の水」につきまして、環境省の選抜総選挙で、おいしさが素晴らしい名水部門で第1位となりましてから、もう2年が経過してございます。そのため昨年、国際的な品質評価機関として著名なモンドセレクション、ビール、水及びノンアルコール飲料部門の2018において初出品をいたしまして、優秀品質金賞を受賞させていただきました。この受賞のあかしが、これでございます。

続いて公共下水道事業ですけれども、平成32年度までは汚水整備の汚水枝線の整備を実施しておりまして、有収水量は少ないながらも上昇傾向にございます。しかし、水洗化が計画より少しおくれておりまして、使用料収益は計画どおり、まだ確保できているという状況にはございません。28年度に審議会の皆様と一緒に作成いたしました29年度から37年度までの事業計画に基づきまして、処理場であります浄水管理センターの改築事業、あるいは大根鶴巻地区の雨水整備などの建設投資につきまして、着実に今進めているところでございます。

29年度決算時点では経営戦略、それから事業計画に従いまして、上下水道の両事業とも経営基盤を強化して事業を進めておりますので、健全経営を維持しております。しかし、だからといって安心できる状況ではございません。大阪北部地震のように、いつ発生するかもしれない地震に対応できるよう、耐震化のスピードを上げるべき必要性が増しております。

これまで多大な投資をしておりました施設の大量更新の時期も近づいておりますので、人口減少が始まっている中、この上下水道料金の収益の増が期待できないというところから、これからの事業の健全経営の維持、これが非常に難しくなっていくと考えております。

そのためにも、審議会の皆様にはご協力をいただきながら、両事業とも来年度に事業ビジョンの見直しに入りまして、32年度には次期総合計画とあわせまして事業計画を策定し、上下水道料金の改定もご審議いただきたいと考えております。

つきましては、本日は両事業の現状をよく見ていただきまして、忌憚のないご意見をぜひいただきまして、お願いをいたしたいと思っております。

以上で私からの挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしく願いいたします。

○課長代理（総務担当） それでは、ここで事務局のほう、4月に人事異動がございましたので、事務局職員のご紹介をさせていただきたいと思っております。局長から順番にお願いしたいと思っております。

○上下水道局長 改めまして、上下水道局長の福井です。どうぞよろしく願いいたします。

○経営総務課長 経営総務課長の草山と申します。よろしく願いいたします。

○営業課長 営業課長、内藤でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○水道施設課長 水道施設課長の小宮と言います。どうぞよろしく願いいたします。

○下水道施設課長 下水道施設課長の山口と申します。本日はよろしく願いいたします。

○下水道施設課担当課長 下水道施設課担当課長、吉川と申します。よろしく願いいたします。

○課長代理（総務担当） 経営総務課の総務担当の井上と申します。どうぞよろしく願いいたします。

○課長代理（財務担当） 経営総務課財務担当の室田と申します。よろしく願いいたします。

○課長代理（経理担当） 経営総務課経理担当の飯沼と申します。よろしくお

願いいたします。

○課長代理（料金営業担当） 営業課料金営業担当の岡崎と申します。よろしく願いいたします。

○課長代理（給排水業務担当） 営業課給排水業務担当の根岸と申します。よろしく願いいたします。

○課長代理（水道計画担当） 水道施設課水道画担当の佐藤です。よろしく願いいたします。

○課長代理（建設担当） 水道施設課建設担当の原です。よろしく願いいたします。

○課長代理（水道維持担当） 水道施設課水道維持担当の松澤と申します。よろしく願いいたします。

○課長代理（施設管理担当） 水道施設課施設管理担当の秋山でございます。よろしく願いいたします。

○課長代理（下水道計画担当） 下水道施設課下水道計画担当の早坂です。よろしく願いいたします。

○課長代理（下水道整備担当） 下水道施設課下水道整備担当の能條です。よろしく願いいたします。

○課長代理（下水道維持担当） 下水道施設課下水道維持担当の北村と申します。よろしく願いいたします。

○課長代理（大根鶴巻整備担当） 下水道施設課大根鶴巻整備担当の三野輪です。よろしく願いいたします。

○課長代理（総務担当） 以上、事務局職員となります。よろしく願いいたします。

ここで、本日の配付資料の確認をさせていただきたいと思います。本日お配りしております資料でございますが、まず本日の次第、A 4、1枚です。続いて審議会の委員名簿。資料1、平成29年度水道事業会計決算についてということで、17ページ物のファイル、ホチキス止めされているものです。資料2が公共下水道事業会計決算について、こちらも17ページ物で、ホチキス止めされているものでございます。資料3が参考資料としまして、水需要予測です。A 3で蛇腹折りされているものでございます。資料4、参考資料、料金収入予測ということで、A 3蛇腹折りされているものでございます。別紙としまして、上下水道審議会の開催日程（案）についてというA 4、1枚の資料でございます。それと、緑のフラットファイルでとじております、上下水道審議会の配付資料ということでファイル止めされているものでございます。それと、ちょっと大きいんですが、この水道事業のPRチラシになります。これは本年8月1日に

新聞折り込みをさせていただいたものでございます。それともう一つ、小さいんですが、秦野市のマンホールカードといったものになります。今年度から8月11日、先般から配布を始めたマンホールカードになります。

資料につきましては以上となります。もし不足資料等がございましたら、お声かけをいただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは、茂庭会長、会議の進行のほうをよろしくお願いいたします。

○茂庭竹生会長 それでは、お手元の次第に従いまして、まず副会長の選出に入りたいと思います。

本審議会の副会長でありました東海大学の西山先生が離職されたことに伴いまして、新たに副会長の職について選任いたしたいと思います。

副会長の選任につきましては、秦野市上下水道審議会規程第4条第1項の規定によりまして、委員の互選により定めることとなっております。選任について、いかがいたしましょうか。

○委員 会長に一任します。

○茂庭竹生会長 会長一任でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○茂庭竹生会長 それでは、私のほうから指名推選したいと思います。

西山先生の後任であって、経営の専門家であります、豊富な知識、学識をお持ちの松原委員を副会長に選任したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○茂庭竹生会長 ありがとうございます。

それでは、副会長は松原委員にお願いすることを決定いたしました。

では松原委員、副会長の席にお移りいただきます。

それでは、早速ですけれども、一言ご挨拶をお願いいたします。

○松原沙織副会長 ただいまご指名にあずかりました松原でございます。微力ながら務めてまいりたいと思います。どうぞ皆さん、よろしくお願いいたします。

○茂庭竹生会長 ありがとうございます。

それでは、次第に従いまして、議事に入りたいと思います。

議題1は「平成29年度秦野市水道事業会計決算について」を議題といたします。

事務局から説明をお願いいたします。

○経営総務課長 私、経営総務課長からご説明をさせていただきます。失礼ですが、座った形で説明をさせていただきます。

では、水道事業会計決算について資料1を、まずはおめくりいただきたいと

思います。資料の分厚いところがございますので、要点的に数字等わかっていただきやすいように、短目のご説明に尽くしたいと思います。

まず、1の総括事項でございます。総括ですので、平成29年度の主な概要がまとまったものでございます。

まず、水需要の減少傾向が平成10年度から続いているということでございます。具体的に29年度の有収水量は約1,873万立方メートルでございます。前年度よりもマイナス約1万立方メートルの減少となっております。

こうした中で、一昨年(平成27年)の4月に料金改定をいたしました。改定率は約15%となっております。

そういった料金改定の通年の適用がございまして、給水収益は前年度に比べまして約2,600万円の増収ということになってございます。その結果、純利益は3億4,661万6,752円を得ることができました。

この辺の詳細については別にご説明をさせていただきます。

また、29年度は7月に、こちらの浄水管理センター管理棟に、組織としての拠点、現在の姿が形成されたところでございます。

また、建設改良事業についてでございますが、水道施設整備計画に沿って着実な事業執行に努めたところでございます。

本年度末での管路の耐震化率は、基幹管路としては32.3%、配水管を含めた全水道管路では22.6%という数字になってございます。

一方、給水人口の減少、節水技術の向上もありまして、一層の水需要が落ち込んでございました。本市も含めて全国の水道事業で健全経営に大きな影響を及ぼすと考えてございます。

1番の総括事項の主な内容は以上でございます。

続けて2ページをお開きいただきたいと思います。2ページは2の業務量ということでございます。上側の項目にございますように、各事項を29年度と28年度と比較して数字の変化をご説明するという資料でございます。

上から順に説明するといたしまして、まず3の年度末の給水人口でございます。給水人口は、下の備考欄にもございますが、松田の一部も加えまして、29年度が16万5,685人。比較しましてマイナスの514名でございます。こういったところに人口減があらわれているとも考えられます。

また、4の普及率は99.88%。

5の給水戸数は7万7,008戸。戸数としては894戸の増加でございます。

給水量につきましては、年間でございますが、2,000万4,576立米ということで、これもマイナスで1万5,336立米の減少という形になってございます。給水量の1日の平均では5万4,807立米。

なお、7にございますが、その中で最大の給水量は昨年の7月3日ということで、5万9,482立米に達しているものでございます。

次に8の有収水量。これは水道料金が収入にカウントされる量のことでございます。年間で言いますと1,873万2,383立米でございます。これについてもマイナスの1万2,549立米ということで、収益が減っていることを示すものでございます。

9の年間有収率は93.64%。漏水等が比較的少ないというような見方になります。

一方、県の企業庁からの水を受けております。10の県水受水量については430万6,818立米ということで、総給水量の約21%を占めるものでございます。

続きまして3ページに移りたいと思います。3ページからは、平成29年度の水道事業会計の予算の執行状況、いわゆる決算の内容でございます。非常にページも多く、数字も多い部分でございますので、主なものを端的にご説明するようにしたいと考えてございます。

まず事業会計のつくりといたしましては、収益的収入に関係するものが前段に、資本的収入、支出に関係するものが後段という形になってございます。

3ページは収益的収入。記載にはないものですが、いわゆる3条予算。数字の3の3条予算と言われるものでございます。

表のつくりといたしましては、収入と支出というような順番になってございます。

また横書きの上の部分ですが、予算額について、当初予算、場合によっては補正予算、その他の財源充当額の増減があり、予算現額が算定されます。そして、やや右側のほうに決算額と予算に対する執行率というような数字の並び方でございます。

この表の中に移ってまいります。1番の水道事業収益のさらに1に営業収益がございまして、営業収益は予算額24億7,734万5,000円に対して決算額が24億4,298万5,757円で、執行率は98.61%ということでございます。

営業収益のうち最も骨格をなす部分は、款、項、目と言いまして、1の1の1ということで、給水収益、そして節に水道料金と記載がされております。この部分でございますが、決算額としては24億1,599万4,995円ということで、98.82%の執行状況となっているものでございます。

続きまして営業外収益。表の中段の部分で、項の2というところでございます。営業外収益は、予算額4億4,855万3,000円に対して4億2,899万9,673円、執行率は95.64%になるものでございました。

この中で主なものといたしましては、目の4、やや下段のほうになりますが、

4の水道利用加入金でございます。予算額が1億3,095万に対し1億3,219万2,000円、執行率は100.95%でございました。

また目6の長期前受金の戻入についてでございますが、予算額が2億1,002万7,000円のところ、2億1,030万1,699円で、執行率は100.13%でございます。この長期前受金というのは、過去に工事等の資本的支出の財源といたしまして、資本的収入として、この企業内に受け入れた金額を、工事で取得した資産の後年度の減価償却にあわせまして、後年度にそれぞれ収益化を図っていく企業会計独自の科目でございます。

次に、ページをめくっていただきまして4ページでございます。3の特別利益でございます。予算額は2,000円のところ、決算額は327万7,796円でございます。固定資産売却益は、具体的には取水場跡地の売却による収入を得たものでございます。

次に収益的支出、5ページに移っていきたいと思います。まず項1の1、営業費用についてでございます。当初予算額24億5,298万5,000円でしたが、967万5,914円を営業外費用に流用をいたしました。表の中央付近に流用額が967万5,914円と表示をさせていただいております。したがって予算額は24億4,330万9,086円となり、決算額は22億6,648万2,465円、執行率は92.76%でございました。

次に内訳となります目1の原水浄水費についてでございます。この原水浄水費は、具体的には水源の涵養、原水の取水、ろ過滅菌に係る設備の維持管理に係る経費でございます。予算額は9億306万3,000円のところ、決算額は8億5,237万6,315円で、執行率は94.39%でございました。

なお、この原水浄水費の中で主なものといたしましては受水費がございます。ちょうど表の中段付近のところでございますが、この受水費は具体的には神奈川県からの分水に係る費用ということで、5億2,129万6,966円の執行になってございます。

また、その受水費の4つほど上に動力費というものがございます。電気等の経費でございますが、1億8,833万8,331円の決算額でございました。

続いて中段付近の目の2番です。配水給水費についてでございます。配水給水費は具体的には配水池、配水管、量水器など、配水、給水設備の維持管理に係る経費でございます。予算額は3億249万8,000円のところ、決算額は2億3,978万5,875円で、執行率は79.27%でございました。

配水給水費の中の主なものといたしましては、給水管修理や量水器の交換を行いました修繕費でございます。修繕費は、この表の下から5つ目にございます。1億415万890円。また漏水修理、漏水調査等の委託料。3つほど上でござ

いますが、その決算額が4,825万8,137円でした。

次に、めくっていただきまして6ページでございます。6ページの上のほうにあります目3の受託工事費でございます。受託工事費の具体的なものといたしましては、給水装置の新設または修繕等、受託工事に係る費用でございます。予算額は2,326万1,000円のところ、決算額は2,144万4,656円、執行率は92.19%でございました。

次に中段の目4の業務費でございます。業務費の具体的な内容といたしましては、料金の調定、収納、検針その他業務に係る費用でございます。予算額が1億2,369万8,882円のところ、決算額は1億2,117万565円、執行率は97.96%でございました。

次に下のほうの目の5、総係費でございます。総係費は水道事業全般に関連する経費でございます。予算額1億5,869万2,204円の予算に対しまして、決算額が1億4,455万1,017円で、執行率は91.09%でございました。主な支出といたしましては、こちら浄水管理センター維持管理負担金900万円等がございます。

次に7ページに進みまして、中段から少し上の6の減価償却費でございます。予算額8億6,675万4,000円のところ、決算額は8億6,303万4,475円、執行率は99.57%でございました。

その下、目7の資産減耗費でございます。予算額6,534万円のところ、決算額は2,411万9,562円で、執行率は36.91%と低いものでございます。こちらの理由ですが、もともと新東名の整備関連での減価償却に伴う除却を予定しておりました。その工事、具体的には中日本の新東名の工事が遅れまして、除却する予定でありました施設の除却が進まなかったことが原因でございます。

次に8のその他の営業費用でございます。こちらについては執行が、このようにありませんでした。

続きまして項の2、営業外費用でございます。営業外費用は、当初予算額では1億8,306万2,000円でしたが、消費税の納税に当たりまして予算が不足していたことから、予備費を2,000万円充用等いたしまして、予算現額としては2億1,273万7,914円となり、執行率100%の執行を行ってございます。

次に営業外費用の中の目1の支払利息及び企業債取扱諸費は、企業債の利息の支払額でございます。1億4,917万3,622円。目2は消費税及び地方消費税で6,315万7,800円でした。

次に項3の特別損失でございます。予算額が280万2,000円のところ、決算額は189万6,020円、執行率は67.67%でございました。目2の過年度損益修正損。これについては平成28年以前の水道料金の漏水等による調定減によるものでございます。

続きまして8ページをおめくりいただきます。8ページからは資本的な収入と支出ということで、記載はございませんが、いわゆる4条の予算というものでございます。

まず項1の企業債でございます。これは借りに関係するものでございますが、予算額4億円に対しまして決算額は3億6,000万円で、執行率は90.00%でございました。具体的には地方公共団体金融機構から年利0.6%で借りに実施し、償還期間は30年度の融資を受けたものでございます。

なお、執行残額4,000万円のうち2,200万円は翌年度への繰り越しをいたしました建設改良工事の財源として繰り越しの措置を行ってございます。

次に項2の工事負担金でございます。予算額が575万円のところ、決算額は1,042万4,086円で、執行率は181.29%でございました。路面復旧や配水管の更新工事の負担金として、3件で約556万円、消火栓設置工事の負担金として9件、約485万円でございます。

次に項3の固定資産税売却代金は1,000円の予算を計上いたしましたが、執行はございませんでした。

次に項4のその他資本的収入でございます。新東名建設工事に係る既設の消火栓の減耗費相当分の負担金収入を予定したものでございます。261万1,000円の予算を計上しておりましたが、先ほどと同様、工事のおくれがございまして、執行率は29.38%になったものでございます。

続いて資本的支出の部分でございます。9ページの頭の部分からでございます。

まず項の1、建設改良費でございますが、予算額は11億1,251万7,000円のところ、決算額は7億2,792万1,562円で、執行率は65.43%でございました。

目1の事務費は、予算額が1億2,019万8,000円、決算額が8,468万5,925円、執行率は70.46%でございました。

続きまして目2の水道施設耐震化事業費。予算額が6億9,139万4,000円に対し決算額は4億3,594万4,601円、執行率は63.05%でございました。これは導水管などの基幹管路の耐震化工事を行っているものでございまして、今泉地区で具体的な工事のほうを行ってございます。

また配水管の改良事業におきましては、河原町や南矢名地区を含めまして13件の工事を行いまして、老朽化した配水管、約1,790メートルを耐震性のあるものに布設替えをしているものでございます。

また、配水管が整備されていない地域の解消に向けまして、北矢名地区でも2件の配管の布設替えを行っているものでございます。

続きまして目3の水道施設整備事業費でございます。予算額は2億955万円で

決算額は1億7,495万5,086円、執行率は83.49%でございました。これは老朽化した柳川取水場の整備、あるいは緊急時対策として向山配水場の遠方監視制御装置等の更新、また堀山下浄水場ポリ塩化アルミニウム注入装置の改良工事、こういったものを実施したものでございます。

次に目4、第4次拡張整備事業費でございます。予算額は6,300万円に対し決算額は1,056万5,640円で、執行率は16.77%でございました。これは新東名高速道路のサービスエリアへの配水拡大に対応するため、堀山下高区配水場の整備工事に着手したものでございます。

続きまして目5の固定資産購入費でございますが、予算額2,837万5,000円に対し決算額は2,177万310円で、執行率は76.72%でございました。

内訳といたしまして、無形固定資産購入費では、浄水管理センター上下水道業務用無線の施設利用権を公共下水道事業から購入いたしまして、防災等を使っているものでございます。

項2の企業債償還金。下のほうでございますが、予算額が4億6,186万3,000円に対し4億6,186万2,440円で、執行率は100%となっております。内訳といたしまして、財務省からの借入れが29件、金額が2億6,011万5,258円。もう一つが地方公共団体金融機構からの借入れが36件、金額が1億8,857万5,650円。最後に神奈川県からの借入れが1件、金額が1,317万1,532円を償還したものでございます。

その他資本的支出は、1,000円を計上しておりますのが、執行はございませんでした。それについては、めくっていただいた10ページの最後に記載のほうをさせていただいたところでございます。

また、記載はございませんが、資本的収入額3億7,119万1,153円に対しまして資本的支出額12億4,189万375円で行いましたが、その不足する金額8億7,069万9,222円につきましては、企業会計のルールに従いまして、過年度分損益勘定留保資金等で、補填をしていくものでございます。

以上が29年度予算の執行状況の概略でございます。

続きまして11ページの損益計算書のご説明をさせていただきたいと思っております。11ページの損益計算書は、記載のとおり、29年4月1日から1年間の業務の状況をあらわしているものでございます。先ほどの収益的収入の決算を、おおむね反映している内容でございます。

まず1番の営業収益でございます。営業収益は、右側のほうに記載がございまして、22億6,435万326円に対しまして営業費用、2番でございまして、21億8,539万3,479円で、その差し引き、営業利益になりますが、7,895万6,847円でございます。

次に営業外収益、3番の項目でございます。4億1,642万1,064円でございますが、これに対する営業外費用、4番でございますが、1億5,026万1,690円でございます。そして、その差し引き2億6,615万9,374円に先ほどの営業利益を足しまして、計上利益は3億4,511万6,221円となります。そこに特別利益327万1,294円、また特別損失177万763円を差し引き150万531円を足しまして、当年度純利益、これは下から4行目になります。当年度純利益は3億4,661万6,752円となります。

こちらに前年度からの繰越利益剰余金1億円とを足しまして、一番下になりますが、当年度末未処分利益剰余金は4億5,970万2,752円となるものでございます。

続きまして、めくっていただきまして12ページでございます。12ページは貸借対照表となりまして、ページ数では12ページから14ページまでにわたるものでございます。それぞれが資産の部、負債の部、そして資本の部というような構成になっているものでございます。

まず12ページの資産の部でございます。資産の部は、分類といたしまして、固定資産と流動資産に分かれるものでございます。その中で固定資産の有形固定資産でございますが、これも分類といたしまして、土地、建物、構築物等に分けられるものでございます。そして有形固定資産の現在の帳簿価格は、合計といたしまして、中央の右側付近でございますが、197億8,866万1,085円となります。同じく無形固定資産は295万4,633円、(3)の投資は5億105万396円でございます。この3つの合計を加えまして、固定資産の合計は202億9,266万6,114円となるものでございます。投資の中には基金もございます。これは水道事業基金あるいは職員の退職準備基金でございます。

次に下段の2になりますが、2の流動資産でございます。流動資産は現金預金及び1年以内の現金化をして支払いの手段として実行ができる未収金あるいは貯蔵品が計上してあるものでございます。未収金には回収不能になることが見込まれる金額を貸倒引当金としてマイナス計上もしているものでございます。流動資産は、記載がありますとおり、21億8,713万4,910円でございます。先ほどの固定資産と合わせまして、資産の合計は224億7,980万1,024円ということになります。

続きまして13ページの負債の部でございます。建設改良事業の財源として借り入れました企業債。固定負債の中で、まず企業債がございます。償還予定が決算日より1年以上先に到来するものが、固定負債の中に記載されている企業債でございます。

また、4の流動負債には同じく企業債がございますが、1年以内に償還が差

し迫っているものと分類をしてございます。

3と4の固定負債と流動負債を合わせた企業債の合計は、記載にはございませんが、73億4,893万7,480円の借り入れがあるということでございます。

また流動負債につきましては、このほかに引当金、未払金、預り金、未還付金などがございまして、やはり1年以内に支払い等が行われるものとして記載がされてございます。合計額は8億1,409万9,617円でございます。

5の繰延収益につきましては、所定の企業ルールで記載のほうがさせていただきますので、説明は省略させていただきます。

続きまして、1枚めくっていただきまして14ページ、資本の部でございます。資本の部は資本金がございまして、自己資本金は企業創設時の所有資産の金額から負債の額を引いた金額でございます。これまでの水道事業運営で得た利益をもって取得した資産の額を積み上げてきたものでございまして、その金額は96億6,630万6,130円でございます。

7の剰余金につきましては、分類のほうがされておりました、資本剰余金と利益剰余金に分かれてございます。資本剰余金は、資産の取得に当たって財源として受け入れた金額でございます。利益剰余金につきましては、企業活動で得ました活動費ということでございます。企業債の償還のために利益を積み上げておりました減債積立金が1億3,958万6,911円、建設改良事業の財源として使用するために積み立ててあります建設改良積立金が2億1,814万7,088円でございます。前年度からの繰越利益剰余金に当年度の純利益を加えました未処分利益剰余金が、合計で4億5,970万2,752円でございます。利益剰余金の合計額は、記載のとおり、8億1,743万6,751円となります。

また、一番最後の欄でございますが、負債と資本を合計した金額が224億7,980万1,024円ということで、14ページの資産の部の合計金額と一致するものでございます。

貸借対照表の説明は以上となります。

続きまして15ページの6の水道事業計画と決算との比較でございます。

水道事業計画は、計画期間が平成28年から37年のものでございまして、この審議会でも議論をしていただいたものでございます。水道施設の整備計画と財政計画の部から成っております、本市での水道事業の健全経営の基本的な推計を立てて、各年度毎の経営状況を確認しようとする目的のものでございます。

この資料の中で収益的収入。先ほど3条と申しましたが、前半の部分の状況がこちらの表でございます。29年度の黒い太枠の線でございますが、その計画の計画値と決算状況でご説明した決算の部。小文字のaと小文字のbであらわしておりました、決算額と計画値の比較をご説明しようとするものでござい

す。

まず3条予算の収入の部分でございますが、収入の合計で、表の中央付近でございますが、決算額のほうが少なく、マイナスの9,300万円でございます。その主なものといたしましては、上段の給水収益の減が2,800万円発生しているものでございます。

また、中段から下の部分が支出でございます。こちらについても、決算が計画よりもマイナスで1億9,400万円の減となっております。

そして一番下の純損益についてでございますが、計画値よりも伸びているものでございます。その結果、計画と比べまして1億100万円ほどの増収があったということでございます。その影響については図の右の欄にございますが、県水受水費の減少によりまして、計画の収益より高まったというような内容でございます。

次に、めくっていただきまして16ページでございます。こちらの予算執行状況でご説明しました資本的収支、資本的予算の4条関係をまとめたものでございます。予算科目と一致しないのは、推計で処理をするために項目のほうが変わっていくものでございます。

29年度に、やはり計画と決算ということを見比べをしてございます。

まず収入につきましては、計画よりも少なく、3,600万円のマイナスでございます。これは、入札によって落札率等の影響で企業債の借入が減入しているものです。

支出につきましては、やはり計画よりも減ということでございます。2億300万円のマイナスということでございます。支出として、建設改良工事等での執行のおくれの部分が発生したこと、入札差金があったこと、こういったものが減の内容でございます。

また、下の(3)の補填財源残高でございます。企業会計では、3条予算の収益をもちまして、4条予算の不足額を埋めるというような形になりますが、その補填をした中で、補填財源残高の最終といたしまして、計画では11億であったところが13億7,300万円ということで、計画よりも補填財源高が高くなったということでございます。端的に言いまして、29年度は計画よりも健全経営が、今年度に限っては行われたと考えるものでございます。

続きまして、めくっていただいた17ページでございます。17ページは経営分析表と言いまして、所定の計算方法で、ご説明いたしました決算状況が経営的にどのようになっているかをあらわしたものでございます。

たくさん項目がございますので、主なものをピックアップしてご説明したいと思っております。

上から2つ目、(2)の固定負債構成比率でございます。算式といたしましては、右側に書いてございますとおりですが、固定負債を負債・資本の合計で割ったものでございます。総資本に占めます固定負債の割合を示すもので、この割合が小さいほど経営の安全性が大きいと言われております。29年度は秦野市は30.75%、28年度は31.59%でございました。隣の全国平均が25.24%ですので、全国平均に比べると若干高目なものになってございます。

固定負債は、具体的には大半が企業債の残高でございます。資産規模に対して借入金残高が大きいということでございます。

次に、少し飛びまして(13)と(14)でございます。これは給水収益に対する企業債の利息、企業債の元金、こういった比率でございます。これらは、いずれも全国平均を上回る比率が出てくるところでございます。

しかし、本市では、この企業債につきまして、既に借入れの上限を4億円と設定しておりますので、徐々に償還金額以下に借入れを抑えるというような措置を一律して適用しているものでございます。年々借入れの残高が減少して、改善傾向にあるものでございます。

次に、少し戻りますが、(7)の当座比率でございます。これは流動負債に対応すべき現金預金及び容易に現金化し得る未収金が十分にあるかをあらわすものでございます。100%以上が望ましいと言われてございます。

28年度の全国平均が248.1%に対しまして、秦野市は28年度が263.80%、29年度も256.13%でなっております。当座の支払資金は十分あると考えてございます。

次に18の最大稼働率でございます。最大稼働率は、配水能力に対する最大配水量の割合で、比率が高ければ施設の配水能力を向上させる必要があります、逆に低ければ能力が余裕があるということになります。施設の規模が適正であるかどうかの指標というものでございます。全国平均が67.69%、秦野市は28年度が61.60%、29年度が61.28%でございました。

最後に19項めの有収率についてでございます。給水量のうち料金収入になった水量の割合をあらわすものですが、全国平均が90.22%のところ、秦野市では28年度が93.63、29年度は93.64%。漏水が少なく、水が有効に使われていると考えるものでございます。

以上、非常に雑駁ではございましたが、29年度の秦野市の水道事業会計の決算についてご報告をさせていただくものでございます。よろしくお願いたします。

○茂庭竹生会長 はい、ありがとうございます。

それでは、ただいまのご説明にありました事項について、ご意見あるいはご

質問がございましたらお願いします。いかがでしょうか。

私から1つよろしいですか。最後のページの、この経営の分析表なんですけれども、一般的には85を超えればいいと言われている中で、有収率が非常に高いんですけれども、いつごろから、90%台の有収率を得られていたんですか。もしわかっていたら教えていただけますか。もし資料がなければ結構ですので、はい、どうぞ。

○上下水道局長 今、手元にございます過去の推移の中では、平成24年度からのものなんですけれども、平成24年度が93.36%の有収率ということで、私が記憶している中でも、もう10年以上は90%を超えているかと思います。

○茂庭竹生会長 冒頭の説明ですと、老朽管の更新率はそれほど、まだ高くないんですけれども。漏水量は相当少ないと考えてよろしいでしょうかね。

○上下水道局長 おかげさまで非常に漏水という部分では率が低くなってございます。かといって、毎年、漏水調査のほうはきちんと、6年ごとに、市内エリアを分割しながら行うなど、漏水についてきちんと対応している成果が出ているかなと考えております。

○茂庭竹生会長 わかりました。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

特にご質問、ご意見等ないようですので、議題1については終わらせていただきます。

続きまして議題の2「平成29年度秦野市公共下水道事業会計決算について」を議題といたします。

それでは、事務局から説明をお願いします。

○経営総務課長 では、引き続き私のほうから少しご説明をさせていただきます。資料2をおめくりいただきたいと思います。資料の構成等は、先ほどの水道事業と同じ内容になってございます。

まず1の1番の総括事項でございます。下水道では、平成29年度から平均5%の増で料金改定を行ったところでございます。その結果、前年度よりも約4.6%、金額では約21億円となったところでございます。

また、業務といたしましては、料金等包括委託業務に公共下水道の普及業務とか給排水の検査業務、こういったものを加え、システムを改修いたしまして、接続を向上させるような取り組みを行っているところでございます。

また、中段というか、やや上ですが、前年度に引き続きまして修繕、委託料などの削減、企業努力も加えまして、純利益が7億9,637万515円を得ることができたものでございます。

また、やや下のほうにありますけれども、建設改良につきましては、浄水管

理センターの長寿命化計画、耐震計画に加えまして組織統合を行いまして、今、皆さんがいらっしゃる、この拠点を沈砂池管理棟という正式名称でございますが、こちらの施設を改築事業を実施いたしました。また、雨水管渠整備事業では計画的な事業を実施してきたところでございます。また細かい数字については後ほど、次のページで説明をさせていただきます。

1 ページをめくっていただいて、2 ページで見開きをお願いしたいと思えます。2 ページは業務量と言いまして、数字で変化をあらわしているものでございます。

中央付近、9 番の処理区域の人口でございます。平成29年度が14万1,962人ということで、昨年よりも370人の増加でございます。

水洗化実績、人口では12万7,376人、増加では335人の増加になってございます。

12番の水洗化率、人口では89.7%。これは変わらずということでございます。

次に、新しい資料になりますけれども、13の接続率でございます。87.1%。昨年よりも0.5%の増加ということでございます。

また14の流入水量。これは処理量のことでございますが、年間では、記載した数字のとおりの内容でございます。

また15の年間有収水量につきましても、水量について記載がございます。

また、最後に16の汚泥の発生につきましては、国の革新的技術実証実験、B-DASHプロジェクトによりまして、汚水の処理に伴う汚泥を乾燥させる処理を行っておりまして、数字のほうは極めてよくなっているものがございます。

まず年間の脱水ケーキ量は6,082トンでございますが、昨年と比べましてマイナス3,778トンでございます。また、その経費でございますが、年間汚泥処分費1億2,264万6,000円でございますが、昨年と比べ約6,000万円の減額になったところでございます。

続きまして3 ページの公共下水道事業会計の予算執行状況でございます。こちらのほうも水道と同様、前半が収益的収入と支出関係、後半が資本的収入と支出関係になります。

まず収益的収入、支出の収入の部でございます。この中の項の1、営業収益でございます。当初予算額が29億4,794万円でございますが、補正を行いまして、予算額は29億4,776万8,000円でございます。決算額は28億2,723万3,949円、執行率は95.91%でございます。

その中で主な項目といたしましては、目1の下水道使用料でございます。その予算額は23億3,619万3,000円でございますが、決算額が22億6,831万9,783円でございます。執行率は97.09%でございます。

営業収益は、そのほかに一般会計からの繰入金。これは雨水の処理に関するものでございます。あるいは、し尿の希釈投入施設の管理関係に要する経費、こういったものが収入として加えられているものでございます。

次に中段付近の目の2、営業外収益でございます。予算額は28億1,276万8,000円のところ、決算額は28億3,489万7,142円、執行率は100.79%でございました。

営業外収益の中で目2の他会計補助金でございますが、予算額が15億7,112万8,000円のところ、決算額は16億274万2,527円。目4の長期前受金の戻入でございますが、予算額が11億3,731万8,000円のところ、決算額は11億4,107万9,021円でございました。

次に、めくっていただきまして4ページでございます。4ページの中で雑収益というものがございます。決算額は2,546万5,019円でございますが、こちらは水道事業会計からの浄水管理センター維持管理負担金900万円を含めております。浄水管理センター、もともと下水の施設でしたので、そこに水道が入ってくることによって、負担金が下水道会計に歳入されたというものでございます。

次に項3の特別利益でございますが、予算額1,000円のところ、決算額は7万2,124円でございます。こちらは過年度の下水道使用料の遡及開栓によりまして調定の増が発生したものでございます。

続きまして5ページでございます。支出の部に移ります。

項の1、営業費用でございますが、当初予算額が42億6,958万7,000円でございます。こちらに職員給与費関係といたしまして1,318万5,000円の補正の減額をいたしました。予算現額は42億5,640万2,000円となり、決算額は40億9,142万1,933円、執行率は96.12%でございました。

次に目1の管渠費、内訳でございます。汚水、雨水の管渠、公道に埋設されております管のことでございますが、その維持管理に要する経費でございます。予算額は1億8,084万2,000円のところ、決算額は1億4,019万9,054円で、執行率は77.53%でございました。

管渠費の中の主なものでございますが、委託費、決算額は4,925万8,368円でございます。具体的な内容といたしましては、マンホールポンプという公道等にあるマンホールの下にございますけれども、そうしたポンプの保守点検に関するもの、あるいは雨水管渠の浚渫に関するもの等でございます。

次に中段の目の2、ポンプ場費でございます。具体的には大根川ポンプ場、鶴巻中継ポンプ場の管理事業に係る経費でございます。予算額が5,597万3,000円のところ、決算額は4,896万7,312円で、執行率は87.48%でございました。主なものは委託料で3,062万5,964円でございますが、大根川ポンプ場の管理事

業費としては10件の委託料がございます。また鶴巻中継ポンプ場の管理事業では6件の委託業務がございます。こういったものの合計でございます。

続いて目3の処理場費でございます。具体的には、こちら浄水管理センターの維持管理に係る経費でございます。予算額が6億5,710万3,000円のところ、決算額は6億1,152万7,653円でございます。執行率は93.06%でございます。

次に、めくっていただきまして6ページでございます。上段にあります目4の受託事業費でございます。こちらは秦野市の一般会計部門から受託を受けております雨水排水施設の管理事業。こちらの施設内にありますし尿希釈投入施設の管理事業、また家庭用の小型合併浄化槽の奨励事業の3つに係る事業でございます。予算額が7,479万円、決算額が5,820万8,273円、執行率は77.83%でございます。

続いて目5の普及促進費でございます。こちらは水洗化、下水道への接続を促進する経費でございます。予算額は3,048万7,000円、決算額は2,264万6,462円、執行率は74.28%でございます。平成29年度からは、従来、市の特定職員が行ってございました戸別訪問等によります普及促進事業を、こちらのお客様センターに委託しました。委託料は710万8,011円ということでございます。

やや下段の目の6、業務費でございます。下水道使用料の賦課徴収事務、排水設備、指定工事店に係る事務の経費でございます。予算額が1億4,016万8,000円に対し決算額は1億3,542万5,583円で、執行率は96.62%でございます。このうち委託料は、決算額が6,190万2,278円でございます。内容といたしましては、検針の業務、使用料の賦課徴収の業務、排水設備検査業務などを盛り込みました包括業務委託を発注しているものでございます。

次に7ページでございます。上段の目7、総係費でございます。総係費は公共下水道事業全般に係る経費でございますが、予算額が2億3,613万4,000円のところ、決算額は2億2,186万1,410円でございます。執行率は93.96%でございます。

主な支出といたしまして、当初予定していなかった、いわゆるストックマネジメント計画、こういったものを、下水道事業団と協定を結びまして、委託執行を行いました。また、以前からありますが、一般会計に支払いをしております契約あるいは検査の事務負担金、こうしたものの経費でございます。

次に中段ですが、目8の流域下水道維持管理負担金でございます。予算額が2,729万円に対し決算額は2,422万1,000円でございます。執行率は88.75%でございます。

市の西部の一部、西部処理区の汚水、こちらは酒匂川流域下水道に流入して処理をお願いしているところでございます。こちらの汚水処理経費を負担金と

して支払ったものでございます。

内訳の内容を少しご説明いたしますと、処理経費のうち県負担分を除きまして、平成29年度の維持管理費等予算額21億2,141万円を関連市町、これは3市2町がございいますが、その計画汚水量の有収水量で案分をいたしました。秦野市の負担分は2,991万2,000円となったものでございます。ただし、平成27年度の実績有収水量による精算がございまして、金額で569万1,000円を減額してのこととでございます。

続きまして目9の伊勢原市事務委託維持管理負担金でございます。この浄水管理センターより下流にございます、市の東部の一部の地域でございます、具体的には大根・鶴巻の区域でございますが、その汚水は鶴巻中継ポンプ場を経由しまして、伊勢原市の終末処理場で処理をお願いしているところでございます。その汚水の処理経費を伊勢原市様のほうに負担金としてお支払いをしているものでございます。予算額は2億1,404万4,000円でございます。決算額は2億1,076万8,160円で、執行率は98.47%でございます。

決算額2億1,076万8,160円の内訳でございますが、平成28年度の精算額といたしましては、総流入量1,003万1,530立米のうち、秦野市からの流入量は305万1,258立方メートル、割合では約30%でございます。維持管理費6億5,249万7,856円を、その流入量で案分したものが1億9,846万8,160円になってございます。前年度に概算として1億8,560万円を支払ってございますので、その差額として1,286万8,160円、また加えまして平成29年度の概算額として1億9,520万円、さらに平成27年度の定期修繕費の一部として270万円を合計しまして支払ったものでございます。

次に目10の減価償却費でございます。決算額は26億1,005万7,200円、執行率は100.21%でございます。これについては細かい記載がありますが、諸規定に基づき、予算超過の支出をしたところでございます。

次に、やや下段の目の11、資産減耗費でございます。予算額が3,500万円のところ、決算額は753万9,826円、執行率は21.54%でございます。こちらも水道でご説明したものと同様、新東名関係でございましたが、若干の工事の遅れで、償却すべきものが進まなかったというものでございます。

次に目12のその他の営業費用でございますが、記載のとおり執行はなかったものでございます。

続きまして項2の営業外費用でございます。全体では予算額7億4,160万円に対し決算額は7億2,796万9,153円、執行率は98.16%でございます。

その内訳になりますが、目1、支払利息及び企業債取扱諸費。企業債の利息の支払額でございますが、6億6,515万1,722円。目2は消費税及び地方消費税

でございますが、6,279万3,100円を支払っているものでございます。

続きまして、ページをめくっていただきまして8ページでございます。項3の特別損失でございます。当初予算額220万3,000円でしたが、下水道使用料の誤賦課に対する還付分として330万9,000円を増額補正してございます。予算額は551万2,000円となり、決算額は454万8,268円、執行率は82.52%でございました。

続きまして後半になります。9ページの(2)の資本的収入と支出に移りたいと思います。

まず収入に関係する部分でございます。項の1として企業債がございます。当初予算額は8億6,310万円、これに、上段にございますが、地方公営企業法第26条の関係をした繰越予算あるいは継続費の充当、こういったものがございまして、予算合計額が13億3,460万円になります。

この企業債でございますが、決算額は6億2,530万円で、執行率は46.85%と低いものでございます。こちらについては翌年度への事業の繰り越しがあつて、執行率が低いものでございます。

公共下水道事業債として財務省から4億300万円、地方公共団体金融機構からは2億2,190万円、流域下水道事業債として財務省から40万円の借り入れをしてございます。借り入れの内容といたしましては、利率は、財務省が0.7%、地方公共団体金融機構が0.06%、いずれも償還期間は40年間というものでございます。繰り越しに当たりまして、資金の前借りのため、翌年度に改めて借りかえをする予定でございます。

執行残額は7億930万円ということで、表の一番右側にございます。それぞれの繰越事業の財源として繰り越しをいたしたものでございます。

続きまして項2の他会計補助金でございます。当初予算額5,337万1,000円に対し雨水事業の職員給与費として増額補正をいたしまして、1,967万7,000円を加えてございます。予算額が7,304万8,000円、決算額も同額で、100%の執行でございます。

次に項3の国庫補助金でございますが、当初予算額が1億6,920万円、これに繰越財源等を加えまして、合計では2億5,650万円、決算額では1億6,650万円、執行率では64.91%でございます。決算額の内訳といたしましては、社会資本整備総合交付金3,380万円、防災・安全社会資本整備総合交付金が1億3,270万円でございます。

なお、執行残額については繰越費用の財源として繰り越しの措置をしているものでございます。

次に、項4の負担金でございます。予算額が1,694万6,000円のところ、決算

額は2,101万1,400円、執行率は123.99%でございました。

次に、項5のその他資本的収入でございます。予算額は88万5,000円のところ、決算額は2,395万5,160円、執行率は高い数値となっております。

次に、ページをめくっていただきまして10ページでございます。資本的支出の最後の部でございます。項1の建設改良費でございます。当初予算額は11億6,348万5,000円でございます。これに職員給与費等の補正等を加えまして、予算の最終となる金額が17億2,090万3,440円になります。その決算額は9億3,602万4,545円でございます。執行率は54.39%でございます。これについても繰越事業がございますので、次年度に繰り越しの措置をしているものでございます。

次に内訳となりますが、目1の事務費でございます。予算額が9,998万5,000円のところ、決算額は9,142万8,508円、執行率は91.44%でございました。

その下、目2の管きょ建設費でございます。予算額は10億9,142万4,440円のところ、決算額は4億7,750万1,990円で、執行率は43.75%でございました。

この污水管渠整備事業でございますが、新東名高速道路のサービスエリアの供用開始に向けまして、下水道幹線を約400メートル布設してございます。こうした整備に使われたものでございます。また雨水管きょ整備もございまして、鶴巻温泉駅の小田急線に沿った第1号公共下水道大根第10雨水幹線の継続費の事業を行っているところでございます。

次に、目3の管きょ改良費でございます。予算額1億7,820万円のところ、決算額は1億5,374万430円で、執行率は86.27%でございました。污水管きょ改良事業費でございますが、安全で安心な生活環境を保全できるよう、マンホールトイレ設置工事、あるいは管路の耐震化工事を行っているものでございます。

次に目4のポンプ場建設改良費でございますが、予算額は1,070万円のところ、決算額は367万2,000円、執行率は34.32%でございました。これは鶴巻中継ポンプ場の污水ポンプの改築工事を実施したものでございます。

次に目5の処理場建設改良費は、予算額2億8,148万円のところ、決算額は1億5,931万5,970円、執行率は56.60%でございました。中央処理区の処理場であります、こちら浄水管理センターの改築事業でございます。こちら沈砂池管理棟の耐震工事に引き続きまして、平成29年度は、こちら管理棟の内部の改修工事を行ってございます。こちらの会議室であるとかお客様センターの廊下、トイレ、こういったものを整備したところでございます。

続いて目の6と目の7、西部処理区、大根・鶴巻処理区の処理場建設費の負担として、酒匂川流域下水道整備事業及び伊勢原市事務委託料でございます。負担割合に基づく経費の負担をしているものでございます。

具体的には目6の流域下水道建設負担金でございますが、予算額が118万6,000円に対し決算額は118万4,000円、執行率は99.83%でございます。酒匂川流域下水道事業負担金としましては、関連市町、負担する金額は1億1,959万2,000円ございました。これに、計画汚水量に基づき算出された各市町の負担割合、本市は0.99%の割合でございますが、それを掛け合わせて金額を算出したものでございます。

目7の伊勢原市事務委託建設負担金でございますが、予算額が5,310万円に対し決算額は4,740万8,719円、執行率は89.28%ございました。これは伊勢原市さんとの協定に基づきまして、本市が負担する割合、31.02%を負担しているものでございます。

次に目8の固定資産購入費でございます。予算額482万8,000円のところ、決算額は177万2,928円で、執行率は36.72%ございました。

次に項2の企業債償還金でございます。予算額は20億7,369万4,000円に対し決算額は20億7,349万3,652円、執行率は99.99%ございました。

次に項3、その他資本的支出でございますが、記載のとおり執行はございませんでした。

以上、資本的収入額と資本的支出額の差として不足する金額が20億9,970万3,637円でございますが、企業会計のルールに従いまして、当年度の損益勘定留保資金等を使いまして補填をしたところでございます。

続きまして11ページの損益計算書のご説明でございます。こちら水道と同様の構成になっているところでございます。こちらのほうは、消費税が加えていない金額を使っているものでございます。

まず1番の営業収益は26億5,201万5,162円にしまして、営業費用は40億20万9,375円でございます。その差額、差し引きが営業損失ということで13億4,819万4,213円となっております。営業損失が発生するのは、施設の維持管理等下水道事業の運営を営業費用で行っているのに対しまして、その財源として一般会計からの補助金がございますが、その補助金は営業外収益として収入をしているということから発生しているものでございます。そして経常利益でございますが、8億60万4,278円と黒字を維持しているものでございます。それに特別利益6万6,800円、また特別損失430万563円、その差、マイナス423万3,763円、そうしたものを合計いたしまして、当年度の純利益、下から4行目にありますが、7億9,637万515円となります。これに前年度からの繰越利益剰余金等を加えまして、一番下の当年度未処分利益剰余金は12億1,326万5,846円となるものでございます。

続きまして12ページになります。貸借対照表でございまして、12ページから

14ページまでの構成になってございます。

資産は、固定資産の部のうち、有形固定資産は土地、建物、構築物がございまして、合計では721億9,028万4,320円でございます。無形固定資産は、流域下水道や伊勢原市終末処理場の利用権など施設利用権がございまして、25億2,168万9,450円でございます。投資は763万8,000円でございます。そして固定資産の合計は747億1,961万1,770円となっております。

また2の流動資産でございますが、現金預金、未収金、前払金を含めまして10億8,757万5,516円でございます。資産としての合計は、一番下にあるとおり、758億718万7,286円でございます。

次に、隣の13ページでございます。負債の部でございます。まず建設改良事業の財源として借り入れた企業債の残高でございます。

4の流動負債についても先ほどの水道と同じような構成になってございまして、企業債の全体の残高は、記載はございませんが、335億1,235万853円の残高となっているものでございます。

5の繰延収益につきましては、会計ルールに従って計算のほうをさせていただいておりますので、省略をさせていただきます。

次に、めくっていただいた貸借対照表の最後の14ページでございます。資本の部でございます。

資本の部も資本剰余金の合計、そして利益剰余金の合計。剰余金としての合計が30億5,185万512円でございます。最後に負債資本の合計額が758億718万7,286円ということで、12ページの合計額と一致するものでございます。

続きまして、15ページの6の公共下水道事業会計と決算額の比較についてご説明をいたします。こちらも水道と同様でして、前半が3条、後半が4条ということでございます。推計ですので、予算科目とは一致しない区分を使っているものでございます。

まず収入については29年度の計画と決算の比較になりますが、計画に比べて決算のほうで2,300万円の増額になってございます。これは国からの交付金事業が多かったことが要因でございます。

中段の支出に関係している部分でございますが、こちらについても、計画よりも決算額のほうが多く、1億5,600万円の増額になってございます。その増額の理由ですが、支出の上段、汚水の維持管理費のところでございますが、もともと計画していなかったストックマネジメントの計画等の実行によりまして増額が発生しているものでございます。

一番下の純損益の欄といたしましては、決算額が計画値よりも下がっているものでございます。約1億2,900万円の減額になっているところでございます。

続いて、めくっていただきました16ページでございます。16ページ、4条予算というものでございます。

上段の収入につきましては、決算額が計画よりも2億1,500万円ほどの減額になってございます。収入の主な減といたしましては、雨水の国庫補助金のところで国庫補助を見込んでいたものが実際には少なかったところでございます。また企業債、これについても、もともと大根の第10雨水幹線整備事業でございましたが、繰越措置がされておりますので、29年度の実行が少なかった影響を受けて、借り入れも少なかったものでございます。

支出につきまして、下の合計額でございますが、決算額が計画額よりも少なかったものであり、マイナスの2億1,000万円でございます。

こちらについては、汚水については計画よりも決算額のほうが、計画延長を延ばした等の事業の支出がございましたが、雨水の建設改良費で、先ほどの大根・鶴巻での第10雨水幹線整備が繰越措置を講じたことで、29年度の決算額が少なかったことの影響を受けたものでございます。

最後に補填財源残高でございますが、4条予算の不足額を補った中で、その結果、補填財源残高は、計画値の4億4,200万円を超して、6億円を超えている金額が補填財源残高として確保されたものでございます。

下水道事業計画では平成32年までに、この補填財源残高が10億円を達しようという計画でございますので、29年度に限っては、この補填財源残高が積み増しが継続して増えておりますので、経営的にはよかったというような考え方で評価しているものでございます。

次に17ページでございます。17ページの各指標を、16項目でございますが、主なものを説明させていただきたいと思えます。

まず(2)の固定負債構成比率でございます。全国平均が37.4%に対し、29年度が41.45%でございます。全国平均に比べると若干高目となっているものでございます。固定負債は、大半が企業債の残高でございますので、処理場の建設を独自で本市は行っておりますので、そうした起債の借り入れが影響しているところでございます。

次に、下のほうになりますが、12と13の項目でございます。料金収入に対する企業債利息、企業債元金の比率でございます。いずれも全国平均を若干上回る比率になってございます。平成29年度からは使用料の改定を行いましたので、平成28年度からは、やや改善されているように考えてございます。企業債の借り入れは将来の経営を圧迫することもありまして、適正な残高、借入額について検討を行っております。

やや戻りまして7番目の当座比率でございます。流動負債に対応すべき現金

預金、容易に現金化し得る未収金が十分にあるかをあらわすもので、100%以上が望ましいとされております。28年度の全国平均は51.4%に対しまして、秦野市は45.79%、29年度は37.50%でございます。この点、企業会計に移行してから日が浅いこと、資金の留保が必ずしも十分にできていないということ、そういった注意が必要だということが、資料ではあらわれているところでございます。

最後に一番下の16番目でございますが、水洗化率でございます。全国平均が96.6%でございますが、秦野市は28年度、29年度いずれも89.7%と、やや低い状況になってございます。

あと、最後に加えまして、資料3と資料4の表のご説明をさせていただきたいと思っております。

資料3は2つのグラフがございます。A3でお広げいただきたいと思います。ブルーのものが水道に係る有収水量でございます。右肩下がりという状況でございます。中央の赤い線が29年度の決算のラインでございます。

29年度の決算でございますが、一番高いところでは平成20年でございますが、比較しましてマイナスの12.84%ということでございます。有収水量が減少傾向にあるということを端的にあらわすものでございます。

また、もう一つの赤いオレンジ色の線は下水道の有収水量をあらわしているものでございます。汚水の整備がもう終わったとはいえ、これから接続をされる方も実際にはおりますので、接続率を高める努力をしているところでございますが、ピークが平成32年ということで、これから接続者がやや増えることを想定しているものでございます。

続いて、もう1枚の資料4をおめくりいただきたいと思います。こちらが青が水道、オレンジが下水道でございます。中央の縦棒が平成29年度のラインでございます。

水道については平成28年度に料金改定をいたしまして、有収水量が減る中で一定の料金が向上をしている線が描けていると思っております。また平成33年には、あくまで想定ですが、料金の改定をして、経営の健全経営を図るというような方向もグラフではあらわしているものでございます。

また、もう一つの下水道使用料についても、平成29年の改定5%を加えまして、下水道使用料が向上するような線を描いてございます。これは、あくまで人口推計と接続のベースを兼ねて下水道の使用料を見込んで描いたものでございます。グラフとしては料金が上がっている傾向がうかがえるわけですが、あくまで平成33年度の料金改定を見込んで、今後の健全経営に努めていきたいと考えているところでございます。

ご説明のほうは以上です。

○茂庭竹生会長 ありがとうございます。

それでは、ただいまのご説明に対してご意見、ご質問等がございましたらお願いいたします。はい、どうぞ。

○委員 先ほどの決算資料の2ページになりますが、下のほうの脱水ケーキ量の排出が技術革新によって大幅に削減することができたというご報告をいただいたんですが、この技術革新の効果が出始めたのは平成29年度中の大体いつぐらいからでしたでしょうか。

○茂庭竹生会長 はい、どうぞ。

○下水道施設課担当課長 下水道施設課担当課長、吉川と申します。

去年の29年の7月から本格稼働を始めました。試験的としてあくまでもパイロットプラントとして運用している中で、28年度実績は約9,800トンあたりの、排出量でしたが、平成29年度からは、全体排出量の3分の2を乾燥機などに投入しまして、水分を10%以下に抑えることができるために、かなり減量ができました。乾燥機を使った減量効果として、約ですが、3,000トン以上が一応削減できたという結果になっております。

○委員 効果が出始めたのが今年の7月ごろからですか。

○下水道施設課担当課長 7月です。

○委員 7月以降ということですか。

○下水道施設課担当課長 実際には乾燥機を運転して、すぐに顕著に効果が出ました。

○委員 ということですので、平成30年度は昨年度よりも、さらに良化することが見込まれる。

○下水道施設課担当課長 そうですね。もう30年度については、4月当初から常時運転をかけていますので。

○委員 はい、理解できました。ありがとうございます。

○茂庭竹生会長 よろしいですか。

○委員 はい。

○茂庭竹生会長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 よろしいでしょうか。今回初めて参加させていただいて、冒頭にも総括事項の中でも接続率のお話がありまして、今年度から委託して努めていらっしゃるということでしたけれども、大体、年何件ぐらい回っていて、その成果についてはどのようにお考えになっているのかということと、あと下水道の管渠の耐震化について今、進捗状況はどのような状況になっているのかについて、お知らせいただけたらと思います。

○**茂庭竹生会長** はい、どうぞ。

○**営業課長** 営業課、内藤でございます。

接続率の関係でございますが、昨年度7月から業者に委託をしまして、効果といたしましては358件ほどになります。現在も継続していますが、なかなか相手方の経済的な問題などで、接続率が上がらず、大口の使用、マンション、また浄化槽の更新時期が近い家ですとか、そういったところを重点的に業者のほうに回ってもらい、また強化月間というのを設け、実施をしているところなんです。なかなか接続率が上がらないというのが現状であります。

以上でございます。

○**茂庭竹生会長** はい、どうぞ。

○**下水道施設課長** あと耐震化率なんですけれども、管路施設の重要な幹線というのを抽出しまして、その耐震化率を29年度末に決算の状況をご説明いたしますと、中央処理区。秦野市としましては、この浄水管理センターの中央処理区と、伊勢原市さんのほうに処理をお願いしております大根・鶴巻処理区、あと酒匂川40号の西部処理区と3つの処理区があります。そうした中で、中央処理区が60.4%、大根等処理区が100%。これ平均しますと、29年度末の決算で66.8%の管路施設の耐震化率になっております。

以上です。

○**茂庭竹生会長** よろしいですか。

○**委員** はい、ありがとうございます。

○**茂庭竹生会長** ほかにはいかがでしょうか。

私から1つだけ確認させてください。先ほどの説明で雨水幹線の大根第10雨水幹線の整備計画を繰り越したということですが、これは今年度着工するんですか。

○**下水道施設課長** 現在すでに着工しており、来年、完成予定になっています。

○**茂庭竹生会長** わかりました。

ほかにはございますか。

よろしいでしょうか。それでは、下水道事業会計の決算について、ご賛同いただいたということにいたします。

続きまして、その他の議題に移らせていただきます。

事務局から何かございましたら、お願いします。

○**課長代理（総務担当）** はい。今後の上下水道審議会の開催日程について、私のほうからご説明させていただきます。座って説明をさせていただきます。

別紙の開催日程についてをごらんいただきたいと思います。冒頭で局長からの挨拶にもありましたとおり、上下水道事業の持続的な健全性を図るため、両

事業とも31年度にビジョンの見直し、32年度には事業計画を策定して、上下水道料金の改定についても審議会のほうでご審議をいただきたいと考えております。

このため、平成31年度でございますが、上下水道事業の運営に関する方向性と施策推進の基本的な考え方を示す上下水道ビジョンの計画策定へ向けた検討ということで、平成31年8月以降に計3回程度の開催を予定しております。

続いて平成32年度でございますが、上下水道事業計画の見直しや料金改定に向けた検討ということで、平成32年4月から10月までの間に計7回程度の開催を予定しております。

説明は以上となります。よろしくお願ひいたします。

○茂庭竹生会長 はい、わかりました。そうすると今年度は、もうこれで審議会は開かないということで、ご理解してよろしいんですね。はい。

ほかに委員の方から何かございませんでしょうか。よろしいですか。

○課長代理（総務担当） 1点、すみません、事務局から、最後にもう一つお願ひがございします。

当審議会の会議録につきましては、原則ホームページのほうで公開をすることになっております。公開する前に、事務局で作成する会議録の内容につきまして、会長及び委員1名の方にご確認をいただいております。

会長のほか、会議録の確認をいただく委員の方は、名簿の順番の下のほうから順番にお願いをさせていただいております。本日、山口委員が欠席、前回、柳川委員に確認をお願いしておりますので、今回は小山委員のほうにぜひお願ひしたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

事務局からは以上となります。

○茂庭竹生会長 はい、わかりました。では小山委員、よろしくお願ひします。

それでは以上をもちまして、本日の審議会を終了させていただきます。どうもありがとうございます。

午後4時00分閉会